



撮影：細谷賢明

選定理由：県内の繁殖地は我が国での南限域にあたり、生息数も減少している（現在では数つがい程度）。

形態と生態：全身黒色に見える大型の鳥。全長80-90cm、翼開長は200cmになる。上空を飛翔しているのを見ることが多いが、体色や飛型はトビにも酷似する。見た目の大きさは飛行高度で変わるので要注意。幼鳥は翼下面に大きな白斑をもつ。留鳥として山岳地に生息。上空を帆翔しながら獲物を探し、急降下して足でつかみとる。クマタカと異なり、世界的には開けた草原・荒地に生息する種で、捕食習性もそれに適応している。高標高地の自然生態系の頂点に位置する重要かつ象徴的な種の一つである。

分布(県内)：繁殖地は東部の山岳地域より大山山系まで

確認されている。佐治村三国山山系から氷ノ山一帯は中国山地における中心的な生息地である。行動圏が大きく営巣域外にもしばしば現れる。

分布(県外)：北半球の大陸に広く分布。国内では北海道、本州、四国、九州で留鳥。

生息環境：営巣地は落葉広葉樹の自然林が残存し、岩壁の露出する急峻な山地が中心。広大な行動圏は、様々な植生域を含み、どのような環境が好適であるかは簡単には推定できない。

保護上の留意点：営巣地の中には自然公園等の指定を全く受けていない場所もあり、開発、荒廃の可能性は依然として高い。保護のための早急な体制づくりが望まれる。

特記事項：国の天然記念物（1965年指定）。「種の保存法」規制対象種（国内希少野生動物）。我が国におけるイヌワシの本格的な研究は、1960年代に重田芳夫によって始まったが、氷ノ山を中心とする県東部山地はそのフィールドとして重要な役割を果たした。

文献：

重田芳夫（1974）東中国山地のイヌワシ. pp. 106-140. 「東中国山地自然環境調査報告」（兵庫県、岡山県、鳥取県）。

塩村 功（1992）鳥取県におけるイヌワシの生息状況. *Aquila chrysaetos*, 10: 69-72.

安田亘之（1993）イヌワシ. pp. 46-47. In: 鳥取県のすぐれた自然(動物).

執筆者：小林一彦